

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都橘大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトチバナダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップA・B・C・D、インターンシップ
	学部・研究科等名	文学部、人間発達学部、現代ビジネス学部
	担当教職員名・役職	就職進路課キャリアセンター 山本 博子、中路 陽子
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	37
	受入企業等数	41
	受入企業等名	http://www.tachibana-u.ac.jp/career/develop/internship/index.html
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入事業所の業種が多岐にわたるため、実習先によって内容は異なりますが、社員の基幹的・補助的業務の一部を経験します。実習先によっては、提示される課題のプレゼンテーションや業務に関連する企画立案を行います。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次、3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2.10回以上の配当科目として、事前・事後研修と夏休業期間中の実働10日間以上のインターンシップを組み合わせ実施しています。実習内容や学部により認定科目名が異なります。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に教職員が事業所を訪問し、実習状況等の確認を行っています。また、実習4日目に電話にて学生本人と状況確認を行っています。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前研修では、次の内容の講座を実施しています。第2・3講でインターンシップの目的や働くこと、企業や組織について理解を深めます。第4・7・8講では、目標設定に向けてグループ討議を行い、個人の目標設定を行います。第5・6講でビジネスマナー研修を行っています。実習前にはリスクマネジメントについて学ぶ時間も設けています。研修はキャリア開発科目の教員も担当しています。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	就業体験の内容、実習を通して学んだこと、学んだことの今後の活かし方、実習を通して気づいた課題などをグループワークを通じて学生同士が共有する機会を設けています。インターンシップの集大成として、実習事業所の担当者をお招きし、体験報告会を実施しています。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	実習学生のクラス担当教員が実習先事業所に訪問し、学生の実習状況の確認等を行っています。実習4日目に学生が電話にて状況報告等を大学に連絡しています。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	インターンシップ実習前後にクラス担当教員と面談し、目標やインターンシップ経験後の目標達成と今後の課題について確認を行っています。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アクションプランを作成し、実習前に目標を設定、実習後に達成度と成長内容、新たに気づいた課題をまとめています。最終課題では、レポート作成、提出を義務付け、今後の自身の成長に役立てています。
5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい	

要素⑤	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実働10日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	すべての実習事業所にて実働10日間以上のインターンシップを行っています。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前学習時に企業の方に講演頂き、インターンシップ参加の意識を高めています。また、インターンシップ前に学生が実習事業所の担当者を訪問し、インターンシップ参加目的や目標を担当者の方と共有し、実習に臨みます。インターンシップ後は、受入事業所から学生の評価をして頂き、単位認定の一要素にしています。
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.tachibana-u.ac.jp/career/develop/internship/index.html プログラム内容については、送付資料をご確認ください。2017年度に内容を大きく変更しました。ホームページ上は2017年度の内容になります。	
問い合わせ先	大学等名	京都橘大学
	担当部署名	就職進路課キャリアセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	山本 博子、中路 陽子
	電話番号	075-574-4117
メールアドレス	career@tachibana-u.ac.jp	